

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立益田清風高等学校 事業実施報告書②

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

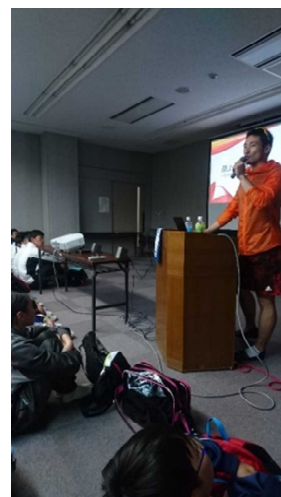
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I・II・V 】
2 実施対象者	益田清風高等学校 陸上競技部 午前 スポーツ少年団員（小学生） スポーツ少年団指導者 合計 約 170名 午後 一般、高校生、部顧問・コーチ 合計 約 320名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ①教科名（ ） ②行事名（ ） ③その他（ ） （2）地域における活動 ①イベント名（陸上競技 飛騨地区春季技術講習会・講演会） ②その他（ ）
4 目標 （ねらい）	トップアスリートと共に活動することで、より身近な存在として感じさせ、スポーツ関心を高め、さらに高い競技力の向上を目指す。 また、高校生が小学生の整列や移動に関わることで、地域のリーダーとして自覚を芽生えさせ、ボランティア精神の育成に寄与する。
5 取組内容	オリンピックによる講演会及び実技講習会 （1）日 時 平成29年5月6日（土） 講演会：高山ビッグアリーナー 講習会：午前 武道場（雨天のため） 午後 中山公園陸上競技場 （2）講師 塚原 直貴（つかはら なおき） 富士通陸上競技部 所属 2000年シドニー五輪 男子4×100mリレー銅メダリスト ＊＊のちに銀メダルに繰り上げ （メダル獲得は日本選手の陸上競技男子トラック種目史上初）



(3) 内 容

【 講演会 】 「 陸 上 人 」 ～ ただ走ることが好きだった ～



ただ走ることが好きだった塚原選手が、少年時代から数々の経験と多くの人との出会いを通して成長し、夢の舞台のオリンピックを体感するまでの道のりを語ってくれた。

どの選手でもそうであるが、目標はひとつひとつ叶えることで、新たな目標が設定される。当然、怪我に苦しんだり、成長の停滞が起こる時期もあった。

思うようにいかないことや幾多の苦難を乗り越えた先には、夢の世界であったオリンピックの舞台は目標と変わっていた。シドニーオリンピックでは歴史の扉をもこじ開けるメダル獲得という夢の世界が現実となった。仲間と共に駆け抜けたリレー競技では、世界中が注目する大歓声に包まれ異常な高揚感と興奮のなかで、自分を信じぬき全力を出し尽くした歓喜と感動の波に包まれた。

夢を追い続ける感動と挑戦する勇気を年代別に語ってくれた講演であった。



【 技術講習会 】

<午前> 小学生の部

高山ビックアリーナ 武道場

雨天のため、武道場の畳の上での実施となった。

裸足になり、足裏感覚や指を使うことの重要性を確認するトレーニングを遊び感覚で体験

その後

<歩行> → <スキップ> → <サイドステップ>・<リズム運動>
のなかでバランスよく体をコントロールする感覚を養う。



下の写真にある運動は、体幹（骨盤）が動かす感覚で走るための＜お尻歩き＞



神経系に刺激を与え、巧緻性を身に着ける ＜コーディネーショントレーニング＞ → ＜ダッシュ＞ で競争心を刺激



＜ 午後 ＞ 中学・高校生の部 中山公園陸上競技場

天候の回復により、屋外での実施。ハードルを使った体への気づきと地面からの反発をもらって前へ進むトレーニングを実践。専門的な練習に目を輝かせながらトレーニングを重ねることができた。また、一流選手の動きを実際に目の当たりにしている生徒達の姿が生き生きとしていました。動き切れ味に圧倒される！！



	最後にすべての生徒がシドニー五輪のメダルを実際に手にして講演を終了した。（中高校生）     
6 主な成果	飛騨の若者に「夢と希望・挑戦する勇氣」を届ける講演会・技術講習会をおこなうことができた。 子供達がスポーツを通じて夢を目標に変える全力の挑戦のなかで心の視野を広げて、多くの広い世界を知ってほしいと願っている中で、子供達にとって特別な経験であり、超一流に触れるという経験は貴重な財産となった。
7実践において工夫した点 （事業の特色）	参加者の視点に合わせて話を聞いたり実技が受けられるように、年齢的に午前・午後の2部制で実施した。 また、身近な存在に感じるために、小学生にはハイタッチで、中高生にはメダルを実際に手に取る体験の時間を設けた。
8主な課題等	非常に好評であったが、現役選手をお願いするには春のグランプリシリーズ、トラック競技のシーズンインの時期と重なり、講師選定のお願いが現役選手では難しい。 今回のように引退間もない選手の場合は良いが、子供目線で考えると引退して時間のたった講師よりも（大人は喜ぶ）フレッシュな現役選手でお願いできることが良いと考えられる。 講演会・技術講習会の参加者数から見て（本年度は午前・午後の2回公演実施）、現在の参加人数を超えると講習会の意味が減退することが考えられる。
9来年度以降 の実施予定	大変好評であったため、来年度以降も実施する予定である。